



～部活動の地域展開について～

令和8年9月号

庄原市教育委員会
教育長 牧原 明人

枯れ枝に鳥のとまりけり秋の暮れ (松尾芭蕉)

中学生意見発表大会
講評・審査発表

8月は大変暑い日が続きましたが、子供たちは長い夏休みをどのように過ごしたでしょうか。読書や科学研究に励む、日記を書き続ける、思いっきり遊ぶ、スポーツや文化活動に取り組むなど、子供たちは様々な機会を通して活躍をしたと思います。子供たちの活躍の中から2つ紹介しましょう。

1つ目は、8月3日(月)、イングリッシュキャンプを開催しました。小学生9人、中学生20人が参加し、ALTと共に英語を使ったゲームやクイズ、さらにテーマ(今回は祭り)について考える活動など、盛りだくさんの英語活動を行いました。子供たちは英会話を交えて楽しく過ごし、もっと学びたい、もっと英語で話したい、また参加したいと笑顔で話していました。

2つ目は、8月20日(木)、中学生の意見発表大会を行いました。今回もすべての中学校から11人が参加し、身近な問題について考えたことや将来の夢、部活動のこと、家族から学んだことなど、日頃から思っていることや素直な気持ちをしっかりと表現しました。発表内容も表現力も成長している姿がみられました。

さて、今回は、大変厳しい状況にある部活動のことです。

国や県は、中学校で行われている部活動を、これから3～5年間のうちに地域展開をするよう求めています。本市においても、3年前から部活動の検討委員会を立ち上げ、また生徒や保護者の意識調査も実施するなど、その対応について研究を行っています。さらに国や県に対しても様々な機会を通して、本市の厳しい実態を訴えるとともに解決につながる提言を行うことや、関係団体にも協力依頼をするなど、生徒たちの活動が可能な限りできるよう働きかけているところです。

そもそもなぜ地域展開の方針が出されたのか、その主な理由ですが、①生徒減少が進み、学校では継続した活動が困難になってきていること、②部活動の指導・引率等の時間について教師の働き方改革を行う必要があること、③活動の維持・継続を図るためには地域の協力を得ることが欠かせないからなどです。

本市の現状は、地域展開をするには極めてハードルが高く、難しい実態があります。例えば、指導者確保の問題をはじめ、移動手段や人の手配、活動場所の確保や活動時間の問題などがあり、その具体的な解決方法の見通しは立っていません。

今は、単独で活動できないときは隣接学校と合同練習していることや外部講師が配置できる場所は、その方へ指導のお願いをしていることなど、できることから始めています。今後、学校でできることと地域でできることを再検討し、方向性をまとめていきます。

※ 次ページ：8月の活動等の中から、一部写真で紹介します。

令和8年 8月：活動など ちょっと紹介



8月3日(月) イングリッシュ・キャンプ in Shobara (庄原自治振興センター)



8月5日(水)
小学校プールへ
ワンタッチテント8張 受納式
庄原市水道組合会長 小林 護 氏
(市長室)

このまちで得た経験や、支えてくれた人たちへの感謝の気持ちは忘れません。ふるさと庄原市へ恩返しできる人間となり、地域の未来に力を添えられる存在になります。





8月15日(土) 庄原市二十歳を祝う会 200人出席 (みどりしんきんホール)



8月18日(火) 若年層教員研修会 46人参加 (ふれあいセンター)



8月20日(木) 令和8年度庄原市中学生意見発表大会 (庄原自治振興センター)



道後山高原クロカンパーク

8月22日(土) 27th ひろしまクロスカントリー大会 (1003人参加)



庄原中



庄原小

8月22日(土) 第44回 庄原いとし祭 大パレード



8月24日(月) 第186回 市役所ロビーコンサート
「クリスタル・エンジェルス」 約100人鑑賞



8月27日(木) 第2回庄原市立学校のあり方を考える会 (市役所会議室)